遊学俳句

吉谷夏洞選

優秀

冬ざれや能登路に残る千枚田
黒川　静雄（上　中）

（評）写生句で冬路の能登半島を詠んでいる。寒々した感じを季語冬ざれがよく句を引立てて終りに千枚田でくくっている。千枚田は山がかかったところの段々になった田のことで土地の特長がよく出ている。

米寿を迎え悔いなき余生冬に入る
高谷よしゑ（磯　壁）

利休忌や姉より賜ふ朱の袱紗（ふくさ）
河村須賀子（畑　）

制服の少し大きめ新入生
厨子トミ子（上　中）

神将は青年の眉萩の寺
木下　俊夫（穴　虫）

雪解の水鳴り止まぬ永平寺
高木　孝三（鎌　田）

一筋のカラー帽子の花野かな
森岡　節子（西真美）

母の手の狐にかはる冬障子
西山大之進（磯　壁）

早発ちに戸締めのなき遍路宿
近倉　利子（関屋北）

五ツ子の食欲旺盛夏燕
浜口　福子（関屋北）

やや隠す耳美しき冬帽子
田中　舒子（北今市）

霧深し車のライトのみ光る
田中　幸子（西真美）

杣小屋の榾火（ほだび）に黒き薬罐（やかん）かな
中田　英昭（良福寺）

人形に命吹き込む菊師（きくし）業
奥村　成子（関屋北）

トタン屋根踏み外す音猫の恋
堀内　敏子（平　野）

（総評）
前回より投句者多数で佳句多く選をするのに困りました。今回は俳句作法の大切な一つとして、絵で言う空白を残すことについて述べましょう。芭蕉も言うように俳句を作るのに、七、八分にして余白を残せと教えています。余白こそ短詩形の俳句に最も大切なことです。余り言ひすぎないようにしましょう。

町角に植えて春待つすみれ花

遊学短歌

二城しづ子選

優秀

頬つたう涙のごとく雨の日の
電車の窓はかなしみの顔
岡本　悦子（北今市）

（評）四句、電車の窓（に映る顔は）という省略があるが、無くても通じる。誰でも経験する場面を捉えて、言い切った結句の主観に味わいがある。

赤と黄のライトの点滅くきやかに
飛行機は冬の星座へとむかう
田中久美子（穴　虫）

渓谷の間（はざま）に見ゆる空の青ダムの
湖底に沈む里あり
井上　菊子（北今市）

宿題を放りて遊ぶ気持ちとふ
未婚の姉は充実しをり
田熊　禎子（真美ヶ丘）

田の案山子へのへのもへじを隈取りて
稲穂の中に睨みをきかす
河村須賀子（畑　）

事多き寅年の日記を読み返し
卯年の飛躍の糧（かて）となさんか
大橋　喜好（西真美）

烈風に逆立つ髪がアスファルトに
映り軽々この身の押さる
山本　晴子（真美ヶ丘）

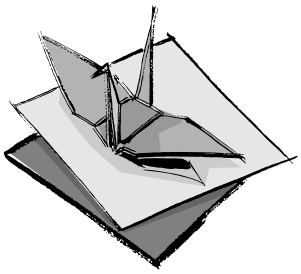
還らざる若き御霊に供へたる
花嫁人形の白無垢かなし
吉田ヤチヨ（穴　虫）

古寺に月の出待たむと佇めば
包むがごとくすだく虫の音
西川　国子（真美ヶ丘）

眠られぬ吉備路の一夜窓外の
月を眺めて君想うなり
多田　清美（穴　虫）

退職の記念の旅の夫の背は
半歩前にてやや丸く在り
浴野　一美（五位堂）

母と共に試練の道程超えしかば
メダル重しと清水選手は
浜辺カズ子（穴　虫）



幾万の金の折鶴放つごと
果ての岬の息呑む落日
中間　伸子（穴　虫）（ポルトガル・ロカ岬）

ゆるゆると入江に向かふ船のあり
鳥羽の浦には陽光の満つ
島田　政子（北今市）

二上（ふたかみ）山の肩に真白き星一つ
凍れる夜に瞬きもせず
中島都思子（藤　山）

（総評）
沢山の応募歌の中には語句の斡旋でもっと良くなると思う作品が多くあり、惜しい惜しいと思いつつ省いた。てにをはで微妙に変わるのが日本語の妙味、更に研究を。

一発の核被爆せばひとたまりも
無き秩序かと街を見廻す

募集しています。

遊学俳句及び短歌では、ご投稿をお待ちしています。応募方法は自作未発表の作品に住所、氏名をご記入のうえ、葉書、または封書で係までお寄せください。
一人三作品まで俳句、短歌を別々に応募してください。

◆締め切り／平成十一年十二月末
◆宛　て　先／〒639－0292
香芝市本町一三九七番地
香芝市役所　企画政策課
「香芝遊学」編集係